

程困難ナリ依テ到底貴意ニ応シ難キ次第ナルモ此点ヲモ
拒絶スルモノトセハ殆ト悉ク貴方ノ希望ヲ拒絶スルノ結
果トナルヘク右ハ甚タ不本意ナルヲ以テ本使ハ特ニ今一
応貴方ノ希望ヲ支持シテ政府ニ請訓スルコトトスヘシ然
レトモ右ハ予カ特ニ妥協的精神ニ基キ為ス処ナルヲ以テ
貴方ニ於テモ他ノ問題ニ関シ一層妥協的態度ヲ表示セラ
レタシト述ヘタリ此点ニ付テハ御訓電ノ必要ナシ
以上ノ討議ヲ終リテ後本使ハ各問題ニ就キ簡単ナル「レカ
ピュレー・ション」ヲ為シ明日會議開催ノ必要如何ニ言及
シタルニ「カ」ハ撤兵問題ハ重要ナルカ之ト無線電信問題
トハ暫ク別トシ他ノ問題ニ就キ見ルニ漁業問題宣伝禁止問

題ハ最早問題ニ非ス尙問題トシテ残存セルハ油田区域問題
「ドウエ」炭礦問題、尼港事件類似事件ノ反対公文問題、
「ベツサラビア」議定書問題ノ四問題ナリト思考ス依テ此
四問題ニ関シ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ何レノ点ニ究極的
意見ノ相異アリヤフ明ニシ各問題ヲ一括シテ總決算ヲ行ヒ
其ノ結果ヲ莫斯科ニ電報スルコトトセハ莫斯科モ審議上大
イニ好都合ナルヘシト信スト述ヘタルヲ以テ大体翌日引続
キ會議開催ノコトニ打合セ散会セル処三十日ハ「カ」風邪
ノ為休会セリ

事項六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外関係

五一一 一月九日(着) 在米国埴原大使(ヨリ)

松井外務大臣宛(電報)

ソヴィエト政府承認問題ヲメグル米上院ニ於

ケル討論狀況ニ付キ報告ノ件

第一七号

一月七日上院ニ於テ露國承認問題ニ關スル討論行ハレタル

カ「ロッヂ」ハ現政府ノ不承認政策擁護ノ地位ニ立チ先ツ
労農政府ト共産党トノ不可分關係ヲ説明シ勞農政府ノ幹部
ハ「チエリン」ヲ除ク外全部共産党ノ役員ナルヲ以テ共

産党カ露國政府ノ原動力タルハ當然ナリト断定シ之カ立証
ノ為數多ノ証拠書類ヲ引用シ次ニ労農政府ノ対米赤化宣伝
ニ論及シ其ノ不都合ヲ難詰シテ共産主義ハ米国人ノ主義信
念ニ合致セサルヲ以テ今日露國労農政府ニ正規承認ヲ与ヘ
労働組織ヲ破壊シ米國ノ法律及自由ヲ攻撃シ国内ニ争乱ヲ
煽動セシムヘキニアラストテ不承認論ヲ力説シタリ

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外関係 五一一

之ニ対シ Borah ハ露國ノ承認ハ單ニ時期ノ問題ナリト前
提シ過般ノ「チエリン」ノ提案ト大統領ノ教書ヲ結ヒ
着ケ此提議ニ応スルハ即チ大統領ノ声明ニ一致スル所以ナ
リト論シ今ヤ露国内ノ秩序極メテ安定セル際米國カ他ノ十
数ヶ国ニ倣ヒテ露國ヲ承認スルハ人道及平和ノ為機宜ノ措
置ト信ストテ承認論ヲ主張シタリ
次ニ Lenroot ハ Borah ノ演説中対露交渉會議カ大統領ノ
教書ニ一致ストノ説ヲ反駁シ Brookhart ハ不承認論ハ笑
フヘキ謬論ナリトテ「ボラー」ノ説ニ賛成シタリ
最後ニ「ボラー」ハ決議案ヲ提出シ國務省ニ対シ過去六年
間露國ノ状態ニ關シ同省ニ報告セラレタル資料例へ威
liam Boyce Thompson, Raymond Robins 大佐 Williams Graves 少将及前「インヂアナ」州知事 Goodrich
ノ報告書ノ如キモノハ上院ニ提出セムコトヲ求メタリ 速
記録郵送ス

五一二 一月十日(着) 在リガ上田書記官ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

露国共産党ノ内訌激甚ラ来シツツアルヤノ情

勢二付キ報告ノ件

第三号

露国共産党ノ内訌ハ激甚ラ来タシ今日迄ノ處ニテハ同党ハ労働反対派、左派、幹部派、右派及經濟派ノ五派ニ分レ幹部派ヲ除ク外ハ皆大体ニ於テ幹部ニ反対シ就中労働反対派ハ最近同党ヨリ除名セラレ「トロツキー」ハ左派ト歩調ヲニシテ公然幹部ノ中央集権主義ニ反対シ同党地方支部ノ多数モ亦幹部ノ專制ニ反対決議ヲナシタリト云フ斯ノ如ク党ノ内輪破アルニ加ヘ同党ニ対スル国民ノ反感日増長シ形勢穩カナラサルモノノ如シ

英、仏、独、波蘭及漢堡ヘ暗送セリ

五一三 一月十四日(着)

在リガ上田書記官ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

露国共産党ノ内部抗争ノ分析報告ノ件

第六号

事実上ノ露国政府タル共産党内輪喧嘩カ今回暴露スルニ至

(二)新經濟政策ノ範囲ヲ拡張スルカ又ハ其儘トシテ置クカノ点ニアリ幹部ハ同党ヲ一党トシテ幹部獨裁ノ下ニ置クヲ必要トスルト同時ニ新經濟政策ノ範囲拡張ヲ非ナリトスルニ反シ同党左派ハ党员同権説ヲ主張シテ幹部專制ニ反対シ又經濟派ハ行詰タル新經濟政策ノ範囲拡張ヲ必要トス以上左派ノ説ハ次第ニ有力トナルノ傾向アルニ加ヘ經濟派ノ説ハ時勢ニ適合スルモ第三「インターナショナル」總理「ジノビエフ」カ幹部ノ首脳者タル間ハ主義トシテ新經濟政策ノ範囲拡張ハ不可能ニシテ而カモ幹部ノ主張ハ到底長持出来サルヘキ關係上機ヲ見ルニ敏ナル「トロツキー」カ一面ニハ經濟派ト氣脈ヲ通シ「ジノビエフ」ヲ殊更正面ノ敵トスルノ態度ニ出テ他ノ一面ニハ左派ト見解ヲニシテ公然幹部獨裁ニ反対スルニ至ルヤ幹部ハ「ト」ニ圧迫ヲ加ヘ其結果「ト」ノ南方転地保養ノ報ヲ

第六号

聞クニ至レリ「ト」対幹部ノ争ハ今日ノ處「ト」ノ負ナレトモ幹部ニ対スル左派ノ反対ハ日々激甚ラ来シ又内外

關係上新經濟政策ノ範囲ヲ拡張スルニアラサレハ露国ハ立行カサル為新經濟政策ノ範囲拡張説カ經濟派以外ニモ有力ナルヲ以テ結局「ト」ハ最後ニ勝利ヲ占ムルニ至ルヘシト見ルモノ多シ「トロツキー」ハ今日モ専ラ左派ト態度ヲニシツツアレト将来機ヲ見テ専ラ經濟派ト態度ヲニシ新經濟政策ノ立直ノ功ヲ立テ其位置ヲ全フスルノ野心ヲ有スト見ルモノ少カラサルモ又

(三)之ニ反シ今回ノ彼ノ態度ヲ以テ南米ノ安全地位ヘノ逃仕度ト見ルモノ少シトセス若シ「ト」カ露西亜人ナレハ新經濟政策ノ立直ノ功ニ依リ彼ハ容易ニ第二ノ「レーニン」タルヲ得ヘキモ国内既ニ排猶太人熱次第二昂マリツツアル關係上世人ハ猶太人タル「ト」カ假令反「ボリセヴィキ」ニ化シテモ政權ヲ全フスルコトハ困難ナルヘシトセリ

英、仏、独、波、漢堡ヘ暗送セリ

五一四 一月十六日(着)

在獨天国代理大使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

トロツキー失脚ノ情勢観測ヲメクリ報告ノ件

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外關係 五一四

跡ハナイ
在英、仏、白大使及リガヘ暗送セリ

ムノ目的ヲ以テ露国ニ来リ居ル外国人ハ皆手控ヘノ状態ナ
リ云々

英、仏、独、波蘭、漢堡ヘ暗送セリ

五一五 一月二十二日(着) 在リガ上田書記官ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

第三インナショナルノ内部対立ニ関スル

観測報告ノ件

第七号

一両日前莫斯科ヨリ当地ニ来リシ者ノ談話ヲ綜合スレハ左ノ通り
露国ニ於テハ上ニ在リテハ共産党ノ内輪喧嘩ニ加ヘ第三「インナショナル」ノ内輪揉メヲ來シ下ニ在リテハ失業者ノ不平民間就中軍隊内ニ於ケル猶太人排斥熱日々高マリ殊ニ莫斯科ニ於テハ大拘引、家宅搜索行ハレ人心惱々形勢穩カナラス第三「インナショナル」内訌ノ原因ハ莫斯科ノ佳境ニテ動キタル独乙共産党ノ運動不成功ニヨリタルコトニシテ露国共産党ハ之ヲ以テ「ラデク」カ第三「インナショナル」本部長タル「ジノビエフ」ノ訓令ヲ守ラス独乙共産党右派ヲ援助シタルニ依ルトセリ要スルニ露国ノ雲行ハ昨今頗ル陰惡ナルヲ以テ利權ヲ獲得シ事業ヲ営

第八号

露国共産党配下幹部ニ於テ「トロツキー」「ラデツク」「クリレンコ」等ノ一派ト「ジノヴィエフ」「カメネフ」「スタリン」「ブハリン」ノ強硬派トノ輒轢ノ風評ニ関シ各種ノ報道ヲ綜合スルニ大要左ノ通
現政府ノ施政方針鬼角軟弱ニ流レ漸次共産主義ノ精神薄ラキ来レル折柄伊太利「ファシスト」党ノ勝利独逸ニ於ケル共産党ノ失脚「ウォロウスキイ」ノ暗殺等ノ事件アリタルヲ以テ露国モ之力影響ヲ受ケ早クモ新経済政策ノ失脚ヲ説ク者アルニ至リタルヲ以テ極左党タル「ジノヴィエフ」「ヴァリン」ノ一派ハ此ノ際益々結束ヲ堅クシ如何ニシテカ軟派ヲ陥レント其機ヲ俟チ居タル矢先計ラスモ「トロツキー」罹病休暇ノ一件發生セルヲ以テ彼等ハ此ノ機ヲ逸セ

ス終ニ反旗ヲ翻スニ至レリ彼等ハ軟化ノ第一歩タル新経済政策ヲ捨テ元ノ恐怖主義ヲ実施シ新有産階級ノ勢力ヲ殺キ労働者貧民階級ヲ優遇センコトヲ主張シ政權ヲ自己ノ党派ニ収メントシ居レルカ何レノ党派カ勝利ヲ得ヘキヤ未タ逆賭シ難シ

五一七 一月二十八日 在哈爾賓山内總領事ヨリ

松井外務大臣宛

英國政府ノソヴィエト政府承認問題ニ關スル

新聞論調報告ノ件

公第五〇号

大正十三年一月二十八日

在哈爾賓

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

英政府ノ勞農政府承認問題ニ關スル論調

英國政府ノ勞農政府承認問題ニ関連シ一月二十九日付「ノーボスチジーゼニ」ハ論シテ曰ク労働内閣ハ内政問題ニ於テ労働階級ノ利益増進策ヲ講スヘキ企図アリ政府ノ最モ一心スル處ハ失業問題ニシテ此問題ノ解決ハ国内ノ経済状態

心ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外關係 五一七

革命思想宣伝防止ニ関スル露国側ノ保証ト云フ点ニ協定ヲ
経サル可ラストナス此等ノ問題ハ解決上打チ勝チ難キ困難
アリトハ思ヘス現ニ莫斯科駐在ノ派遣者「オグレヂ」ハ予
備的交渉ニ入レリト信スルカ愈々承認ニ関スル商議ニ入ラ
ンカ以上ノ各問題ニ就キ莫斯科政府側ノ讓歩ナクシテ済マ
サルヘシ茲ニ於テ露国政府ノ承認ハ彼等ノ権利ヲ認ムルニ
止ラス彼等ノ義務ヲモ明確ニ劃定セム此場合露国ノ英國ニ
望ム権利ハ少ニシテ却ツテ負債問題通商問題——勿論負債
償却ノ便法ハ得タルトシテ——ニ於テ重大ナル義務ノ負担
ニ拘束セラルヘシ然レトモ莫斯科ハ承認ト云フ大ナル矜持
ノ為將又輸出發展策ノ為確固タル基礎ヲ求ムル為進ンテ讓
歩ヲ甘受スヘン、以上ノ推論ヨリ「東方」ノ大使任命ハ聊
カ早計ニ過キタリト雖此承認力実現セラルノ日遠カラシ
而シテ是カ影響如何ニ就テハ他日ニ論ゼン

「コムメルチエスキー・テレグラフ」ハ英國労働内閣ノ成
立、露国承認問題ニ対シ左ノ考察ヲ試ミタリ
今次英國ノ内閣ヲ組織セル労働党ハ其領袖連平常ノ言動
ヨリ観シ白耳義ノ「ワングアーウエリド」独逸ノ「カウ
ツキ」乃至ハ露国ノ「メンシエヴィキ」党員ノ如ク社
断セサルヲ得ス云々

ス只保守党、自由党伝統的ノ軋轢ノ結果政權ヲ得、自由
党ハ保守党ヲ倒ス必要ヨリ今日労働党ニ加担セリト雖問
題カ一度資本主義利益ニ侵蝕ヲ來ス事実ニ触レンカ競争
ハ激甚トナリ労働党ハ遂ニ議会ノ絶対多数ヲ把持シ難ク
内閣瓦解ノ端ヲ發セン故ニ労働内閣成レリトテ露国政府
承認問題カ果シテ確實性ヲ帶ヒ来レリト見ルハ未タシト
断セサルヲ得ス云々

右御参考迄此段報告申進候 敬具

五一八 二月一日 在英國林大使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

英國ノソヴィエト政府承認ニ関スル新聞報道

ノ件

第六五号

(二月一日接受)

往電第五二号ニ関シ

二月一日労働機関紙「デーリー・ヘラルド」ノ報道スル処
左ノ通

英政府ノ對露承認準備ハ其ノ後何等ノ支障ナク迅速且順調
ニ進捗シツツアリ世上右承認ハ条件付ナル可シトナシ並代
理公使ヲ莫斯科ニ派遣スルニ過キサル可シトノ風評流布セ
理公使ヲ莫斯科ニ派遣スルニ過キサル可シトノ風評流布セ

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外関係 五一八 五一九

会民主党ノ系統ニ属スルモノニシテ露国ノ共産党トハ性
質ヲ異ニス共産党ハ前掲社会党ヲ目シテ社会主義上ノ反
逆者トシテ最モ仇敵視シ凡ラユル迫害ヲ行ヒツツアリ第
トシ戰時中ハ国防ニ意ヲ注キ勝利ノ為戰争遂行説ヲ固持
セリ故ニ労働党カ政治ノ實際的運用ニ当リ先ツ英國ノ利
害如何ヲ念頭ニ置キ然ル後國際協調ニ及フヘク労農政府
ヲ承認スルニ際シテモ英國ノ利益擁護ヲ眼目トシ之ノ為
諸種ノ条件ヲ付スヘシ第一ニ來ルヘキハ私有權問題ニシ
テ英國ハ單ニ逝ケル「レーニン」ニ敬意表徵ノ意味ヲ以
テ露国ヲ承認スルニ非ス露国ヲ秩序整頓ノ狀態ニ導キ活
動セントスルニ在リ之ノ為ニハ私有權ヲ認メサスカ支那
ニ臨メル如ク治外法權ノ適用ヲ求ムヘクカクテハ共産党
ハ「コンムニスト」タル名実ヲ失フニ到ラン労働内閣ハ
共産党ノ「ユートピヤ」ヨリ旧英國ノ利益ニ親ミヲ感シ
居レリトスル吾人ノ前提ニ誤リナクハ露国現存政府承認
ハ單ナル宣言ヤ親善振ヲ示スニ止ラス進ンテ積極的ノ条
件ヲ具体化シ来ルヘシ然レトモ一方労働党ノ基礎鞏固ナ
リト見ルヲ得ス議会ニ絶対多数ヲ制シ得タリトス可カラ

ラレ居ルモ之等ハ凡テ事實無根ニシテ右承認ハ全然無条件
タルヘク又在露英國代表者ハ完全ナル大使ノ資格ヲ有スヘ
シ尚右外交關係開始後両国間ノ重要案件凡テ討議セラル可
キ筈ナリ云々

在欧各大使、米國、波蘭、羅馬尼、瑞典、「チエツコ」
「リガ」ヘ郵報セリ

五一九 二月二日 在英國林大使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

英國ノソヴィエト政府承認及ビ代理大使派遣

ノ件

第六六号

(二月三日接受)

往電第六七号ニ関シ

英國政府ノ右公文ハ予テヨリ労働党ノ政綱ニ提言セル通り
露国ノ正式承認ヲ行ヒタルモノナルト同時ニ直ニ大使ヲ派
遣セス此際 Charge d'Affaires ヲ置クニ止メタル所以ハ
蓋シ今直ニ正式大使ヲ交換スレハ露国ニ対シ其ノ欲スル全
部ヲ与フルコトナリ又宮廷ニ於テハ直ニ露国大使ヲ引見
セラレサルヲ得サルコトナルヲ以テ対独平和條約効力発
生後独逸ニ対シ行ヒタルト同様代理ヲ置クニ止メ其ノ間右

公文中列記ノ諸問題ニ付テノ交渉ニ幾分有利ノ余地ヲ存スルト共ニ他方此際突然宫廷ニ露國使臣ヲ受ケサルヲ得ナル事態ノ發生ヲ避ケタルモノト觀察セラル往電第四八号余見ノ際「クロ一」ハ右ノ方法ハ此際ニ於ケル way out ハ策ナルキカト考フル旨ヲ本使ニ内詰シ居タリ

在歐州各大使、在米大使、在瑞典、波蘭、希臘、羅馬尼公使及リガヘ暗送セリ

五二〇 一月二日 在英國林大使より
松井外務大臣宛(電報)

英國ノンガムヒト政府承認ハ別電表ノ件

別電 一月二日在英國林大使發松井外務大臣宛電報第大七号

英國ノンガムヒト政府承認ハ區スル通牒

(一月二日接収)

當國政府ハ一月午後ノ閣議ニ於テ對露通牒 text ハ決定固

旦在莫斯科 Hodgeson 並ニ Tchicherin は今後通牒ハタル旨発表セラル

右通牒全文別電第大七号ノ通

- (元 聞) 一一月一日在英國林大使發松井外務大臣宛電報第六七号
英國ノンガムヒト政府承認ニ關スル通牒
- I have the honour, by direction of my Government, to inform your Excellency that they recognise the Union of Socialist Soviet Republics as 'de jure' rulers of those territories of the old Russian Empire which acknowledge their authority.
 - In order, however, to create normal conditions, complete friendly relations, and full commercial intercourse, it will be necessary to conclude definite practical agreements on a variety of matters, some of which have no direct connection with the question of recognition, some of which, on the other hand, are intimately bound up with the fact of recognition.
 - In the latter category may be cited the question of existing treaties. His majesty's Government are advised that recognition of the Soviet Government of Russia will, according to accepted

principles of international law, automatically bring into force all the treaties concluded between the two countries previous to the Russian revolution, except where these have been denounced or have otherwise juridically lapsed. It is obviously to the advantage of both countries that the position in regard to these treaties should be regularized simultaneously with recognition.

4. Technically unconnected with recognition, but clearly of the utmost importance are the problems of settlement of existing claims by the Government and nationals of one party against those of the other and the restoration of Russia's credit.

5. It is also manifest that genuine friendly relations cannot be said to be completely established so long as either party has reason to suspect the other of carrying on propaganda against its interests and directed to the overthrow of its institutions.

6. In these circumstances His Majesty's Government (露) to send over to London at the earliest

possible date representatives armed with full powers to discuss these matters and to draw up the preliminary bases of a complete treaty to settle all questions (脱).

7. In the meantime, I have been given the status of Chargé d'Affaires pending the appointment of an Ambassador and I am to state that His Majesty's Government will be glad simultaneously to receive a Russian Chargé d'Affaires representing the Government of the Union at the Court of St. James.

(右程詫ヤ)

1. 我ガ政府ハ労農社會主義連邦共和国ガ英國政府ノ主權
ハニアル旧露西亞帝国領土ノ統治者タルヒト正式承認
ヤシコムニ命ニ依リ閣上ニ報告ス
11' 然シトニヤ完全ナル友邦關係及通商關係ヲ生ゼンマム為
メリハ各種問題ニ關スル確定的ニシテ實際的ナル協定ヲ
シングル必要アリ茲ニ各種問題ト称スルモノノ中ニハ承認
問題ト直接關係ナキヤノ及承認問題ト密接ナル關係ヲ有
ベルヤハニア命シ

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外関係 五二一

八三〇

三、承認問題ト密接ナル関係ヲ有スル諸問題中ニ属スルモノノハ現行条約問題ナリ我ガ政府ハ國際公法ノ通則トシテ露国革命以前ニ於テ英露両国間ニ締結セラレタル凡ユル条約ハ已ニ廢棄セラレタルモノ及当然無効ニ帰シタルモノヲ除キ他ハ悉ク勞農露国政府承認ニヨリ自然的ニ有効トナルベシトノ通知ヲ受ケ居レリ承認ト共ニ此等ノ諸条約ガ自然的ニ復活セラルハ両国ニ取リテ頗ル便利ナルコトハ明白ナリ

四、承認問題ト法理上全然関係ナキモ極メテ重大ナル問題ハ両国中ノ一政府及国民ノ他ノ一国ニ対スル現在ノ要求ノ解決問題及露国債務ノ復活ナリ

五、両国中ノ一国ニシテ他ノ一国ガ自國ノ利益ニ反シ且ツ自國ノ制度ヲ破壊スルガ如キ宣伝ヲ行ヒツツアリト推定スル理由ヲ有スル限りハ友邦関係ガ完全ニ恢復セラレタリト言フコトヲ得ザルハ勿論ナリ

六、於茲英國政府ハ……脱字……此等ノ事項ヲ協議シ且ツ全問題ヲ解決スル完全ナル条約ノ予備の基礎条件ヲ作成スル為メニ全權ヲ有スル代表者ヲ至急倫敦ニ派遣セラレンコトヲ……脱字……

七、余ハ駐露大使ノ任命セラル迄デ代理大使タルベキコトヲ命ゼラレタリ而シテ英國政府ハ又同時ニ勞農露国政府ヲ代表スル露国代理大使ノ我国ニ派遣セラルコトヲ欣ブモノナリ

編註 ソヴィエト政府承認ニ関スル英國通牒中六ノ脱字ハ in-vite the Russian Government 及ビ末尾ハ outstanding between the two countries. ナリ

五二一 二月四日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

イエト大会ノ反応報告ノ件

第二八号

(二月五日接受)

往電第二七号ニ閲シ二月一日莫斯科「ロスター」発電ニ依レハ英國ノ勞農承認通牒文カ二月二日莫斯科ニ於ケル第二回「ソヴィエト」共和連盟大會ニ於テ「リトビノフ」ニ依リ發表セラルルヤ拍手ヲ以テ迎ヘラレ同会ハ直ニ滿場一致ヲ以テ大要左ノ決議ヲナセリ

英國カ「ソヴィエト」共和連盟政府ヲ承認シ両国ノ国交設

定セリトノ報道ニ対シ本大會ハ満足ヲ以テ之レ英國労働政

府ノ歴史的第一著歩ト認ム平和ヲ主眼トスル勞農政府ハ革命以來各国ト常態關係ノ設定ニ努力シタルカ昨年一時国交惡ニ陥ラントセシ英露關係モ遂ニ吾人ノ盟友タル英國労働階級及識者ノ平和ニ対スル努力ニ依リ世界平和ノ確保ノ為「ソヴィエト」露西亞ヲ正式ニ承認スルニ至リ今回両国間ノ深交ノ基礎ヲ樹立シ現時國際關係ノ常ニ各國労役者ヲ脅威シ居タルニ際シ英國労働政府今回ノ舉ハ特ニ顯著ナル意義ヲ有ス本大会ハ両国民ノ協力ハ「ソヴィエト」政府平和政策ノ一要義ナルヲ以テ吾人ハ全力ヲ尽シテ両国民並ニ全世界ノ経済政治發展ニ努力セン事ヲ声明ス本大会ハ英國民ニ対シ兄弟的握手ヲ為シ承認ニ関連シテ生スル必要ナル処置ヲ英國政府ニ対シ執ラン事ヲ我ガ政府ニ委任ス云々

ク「ザバイカル」東部ニ於ケル一揆ハ猶各地ニ起リ此間「スタリク」等ノ職業的「バルチザン」之ニ乗シ在支白党之ヲ声援シツツアリ「アムール」方面ノ反乱ハ未タ全ク鎮定ニ至ラサルモノノ如ク「チタ」ヨリ最近兵ヲ輸送セル由ニシテ当地ヨリ旧将校ノ同方面へ赴ク者アリ當地露国代表ハ支那側カ右反徒ニ武器ヲ供給シ居ルモノノ如シト本官ニ内話セリ

此種農民一揆ハ露国ノ現状ニ於テ冬期徵稅期ニハ免ルヘカラサル慢性的現象ニシテ当分断絶セサルモ之カ政局ニ影響ヲ及ホスモノトハ思ハレス

北京ヘ転電セリ

五二二 二月五日(着) 在満州里田中領事代理ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

シベリア各地デノ農民ノ反乱ニ關スル情報報

告ノ件

第七号

大正十三年二月十日

(三月十日接受)

西比利亞各地ニ農民ノ反乱アリトノ説頻ニ伝ヘラルムモ

露トノ交通平常ノ通ナルヲ以テ多クハ誇大セル風説ナルヘ

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外関係

五二二 五二三

八三一

英國ノ「ソビエト」政府承認ニ対スル加奈陀新聞
ノ論調報告ノ件

本件ニ開スル加奈陀ノ態度ニ付当地方新聞ハ未タ詳細ノ意見發表ヲ試ミサルモニ、三新聞ニ現レタル論調大要左ノ通りニ有之候

一、「トロント・グローブ」紙（自由党機関紙）

莫斯科政府承認ノ主タル動機ハ經濟的ニシテ政治的ニ非ス英國政府ハ今次ノ行動ニ因リ対露通商關係正常ニ復シ直ニ英國産業ニ刺激ヲ与フ可キヲ希望スルノミナラス其可能性ヲ信スルモノノ如シ彼等ハ又「ソビエト」政府ノ無条件承認カ同政府ヲシテ或程度迄帝政時代並「ケレンスキイ」時代ノ旧債務ヲ承認セシムルニ至ル可キヲ信ス如斯信念ノ正否ハ唯時ヲ俟ツテ知ル可シ

仏國ノ對露關係ハ英國ノ立場ト異レリ仏國ノ對露投資ハ莫大ナル額ニ上レリ「モスクワ」政府ハ從来旧政府ノ債務支払ヲ拒絶セルカ同政府カ文明國間ノ國際原則ヲ尊重セサル限り巴里政府ノ承認ヲ得ルノ望ナキカ如シ

加奈陀ハ英國ノ政策ニ直接ノ利害關係ヲ有ス独立行動ノ明示的意思表示ヲ為ササル限り英國ノ對露承認ハ當然加奈陀

ヲシテ露国トノ完全ナル外交關係開始ニ至ラシム本件ハ又近ク來加ス可キ露国通商委員ノ訪問ニ新意義ヲ与フルモノナリ戰前露国ハ或種ノ加奈陀製造殊ニ農具ニ対スル重要ナル市場ナリキ

露西亞ノ信用狀態回復ハ英加ノ對露通商ニ大ナル将来ヲ齎スモノナリ然レトモ目下外国人ニシテ露国ト信用取引ヲナス者ハ損失ノ危険ヲ負担セサル可カラス露西亞ニハ私有財産ヲ認メ居ル國程ノ確実性無カルヘク從テ對露投資ハ一種ノ賭博タル性質ヲ有シ唯「ソビエト」政府ノ名譽ト露西亞人ノ堅実ナル政府維持ノ能力トニ依頼スルノミ目下ノ處露國ハ國際貿易ヲ再建ス可キ堅実ナル基礎ナキカ如シ政治的見地ヨリ論スレハ英國政府ハ英帝国内ニ於ケル「ボルシュビーキ」ノ宣伝防止ニ關シ一種ノ危険ヲ冒スモノナリ今ヤ同政府ハ世界ノ承認ヲ克ン事ヲ熱望ス可ケレハ必ス周到ニ

莫斯科政府ハ善良ニ行動スルモノト認定セラレタリ而シテ同政府ハ世界ノ承認ヲ克ン事ヲ熱望ス可ケレハ必ス周到ニ行動スルナラム

二、「モントリオール・ガゼット」（保守党）

「マクドナルド」首相ノ「ソビエト」政府承認ハ夙二期待セラレ居リタル處ニシテ自由党側ノ言質ヲモ取リアルニ依

リ議会閉会ノ曉ニ於テモ逆転ヲ見ルカ如キ事万無カル可シ同首相ノ行動ハ英國ノ利益ヲ主トシタルモノニシテ「ボルシェビーキ」若クハ「ソビエト」制度ニ同情ヲ表シタルモノニ非ス正当ニ樹立セラレタル政府ノ承認ハ尋常ノ事ニシテ労働党ノ政綱中ニハ出来得ル丈國際關係ノ回復ニ力ヲ致ス可キヲ述ヘタリ而シテ本件ニ開スル同首相ノ主タル動機カ經濟的ニシテ政治的ニ非サルハ明ニシテ今日英國カ外國貿易ニ依頼スル處大ナルハ言フヲ俟タス今回ノ露国政府承認ハ諸種ノ権利主張宣伝禁止ノ保証等尙解決ヲ要ス可キ問題ヲ残セリ「マクドナルド」氏ハ此等ノ問題ヲ復旧セル外交機關ヲ通シテ行ハントスルナリ既ニ波蘭ハ承認ヲ声明シ

伊太利又動ケリ仏國モ通商的見地ヨリ對露承認ノ準備ヲナシ居レリ先ツ英國ニヨリ火蓋ヲ切ラレタル此ノ運動ハ歐洲ニ於テ一般的ノモノトナルノ勢アリ若シ「マクドナルド」計画ニシテ成功センカ世界ニ大ナル影響ヲ与フ可ク而シテ他方外界トノ接觸ハ露國ヲ安定セシメ常態ニ復帰セシムルノ效果アル可シ加奈陀ハ「マクドナルド」氏ノ政策ニ闇シ直接關係アリ氏ノ政策ハ加奈陀ヲ露国トノ完全ナル外交關係ニ入ラシムルモノナリは又露国通商委員ノ加奈陀訪問

尚詳細ハ別紙（編註）省略新聞切抜ニ依リ御承知相成度右及御報告候

敬具

五二四 二月十一日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

英伊両国ノソヴィエト政府承認ニ付スルチ子

エリン外務人民委員ノ声明ニ付キ当地新聞報

道ノ件

第三六号

（二月十二日接受）

往電第三五号英伊両国ノ「ソヴィエト」政府承認ニ關シ十

一日当地夕刊紙カ二月九日莫斯科「ロスター」発電「チエ

リン」声言トシテ掲ケタル大要左ノ通り

英國カ列国ニ率先シテ為セル正式承認ハ國際關係ニ永ク影響スヘシ英当局ハ債務支払及旧財産ノ弁済ヲ強要セントシタルモ我政府ハ頑強ニ辞シタル處英國ハ遂ニ其労働者ノ圧迫ニ依リ吾人ヲ無条件正式ニ承認セリ吾人ハ總テノ繫争問題ヲ審議スルヲ欲スルヤ久シク之カ為ニ會議開催ヲ歡迎ス「マクドナルド」政府ハ今ヤ吾人カ帝国主義ナラサル世界的政策ノ主義的見地ヨリ同意スヘキヲ知レリ英國ノ資金提供ハ總テノ繫争問題ノ解決ヲ容易ナラシム伊國ノ承認ハ稍々遲レタルモ両国ニ取り好結果ヲ來スヘシ蓋シ是レ吾人ニ有利ナル而已ナラス伊太利ノ國際的地位ヲ鞏固ナラシム

仮政府ハ吾人ノ債務及全私有財産問題ニ對スル鞏固ナル態度ヲ相當強クセルナラン吾人ノ國際關係指導ハ「レーニン」ノ遺訓ニ依ルヘシ云々ト

レハナリ

五二五 二月十三日（着） 在英國林大使ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

英國政府ノソヴィエト政府承認ニ付キ当地新

聞論調報告ノ件

第八九号

対露承認通牒及露国ノ右回答ニ對シ當國新聞ノ所論大要左ノ通り

(一) 対露承認通牒ニ對シテ主要新聞中一トシテ表面ヨリ之力評論ヲ試ミタルモノナシ纔ニ「デーリー・ヘラルド」カ農政府承認ハ労働党年来ノ主張ニシテ新内閣成立後僅ニ一週間ニテ之ヲ実現シ得タルハ我党政策ノ成功ナリト誇リ一、二夕刊新聞ハ対露通牒ハ正式承認ト称セラルモ実ハ紙上ノ承認ニ過キスト短評ヲ試ミ「デーリー・テレグラフ」ハ承認ハ承認ナリト雖モ英露間重要案件ニ付テハ總テ之ヲ確定條約ノ締結ニ留保セリ蓋シ該通牒ハ新首相從来ノ

言質ト英國ノ他ノ要求トヲ最モ巧妙ニ調和セシメタルモノナリト云フヘシト論シタルカ如キ其ノ重ナルモノナリ

(二) 露国ノ回答ニ付「タイムス」ハ其字句制限のニシテ事前ニ一物ヲモ打明ケサルノ決心明瞭ナリ之ニ反シ英國通牒ハ之ヲ文意以上ニ解釈セントスルノ傾向ヲ有シ同通牒中殊更ニ漠然タラシメタル領域ニ對シ自ラ明瞭ナル定義ヲ下シ又露西亞ナル文字ノ使用ヲ避クルニ努ムルノ跡歴然タリ即チ労農政府ハ英國通牒ヲ彼等ノ御都合主義ニ解釈セントスルモノナレハ交渉開始前両国政府間立場ノ相違ヲ明瞭ナラシムルノ要アルヘシ尚「ソヴィエト」政府ハ露西亞ト「ソビエト」國家又ハ組織トノ間ニ連続ノ完全ニ破壊セシコトヲ確然タラシメントセルコト両国間旧諸条約ハ總テ廢棄セラレタリト仮定セルコトニ依テ明カナリ

債務破棄ニ關シテハ相互の義務ノ解決ト簡短ニ取扱ヒ宣伝

警告ニ對シテハ相互信任及内政不干涉ト逃レタリ蓋シ右回答ハ全然相容レ難キ組織ノ両国間ニ於テ如何ナル交渉モ非常ニ困難ナルヲ説明スルモノナリ云々

又「デーリー・メール」ハ言辭懇懃ナルモ單ニ承認ニ関連セル諸問題並英國ニ於ケル露国ノ信用回復手段決定ニ付友

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外関係 五二六

機密公第一五七号

（三月五日接受）

五二六 二月二十日 在長春領事 西 春彦（印）

松井外務大臣宛

ザバイカル方面ノ反政府運動ニ關スル情報送付ノ件

（二月二十日）

在長春領事 西 春彦（印）

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

大正十三年二月十九日付長高警第九五七号

長春警務署長報告 写送付

後貝加爾ニ於ケル反政権運動及之ニ關スル判断

八三五

ニ就テ

首題ノ件ニ関シ満州里方面ヨリノ内報ニ依レハ大要左ノ如シ

左記

一、反政権運動ノ原因 イ、遠因

一、後貝加爾ノ地タルヤ位置極度ニ北ニ偏シ一年中ノ過半ハ冰雪ヲ以テ蔽ハレ寒氣極メテ凜烈ニシテ地形ハ山岳林多ク交通頗ル不便ナリ從ツテ住民ハ此天然ノ氣候風土ヲ

征服シ自己ノ生活ヲ全フセン為必然的ノ要求トシテ不羈独立勇猛ナル性質ヲ付与セラルニ至レリ

二、後貝加爾ハ純然タル農業地方ニアラスシテ農牧相半スルノ地方タリ從ツテ他ノ農業地方ニ比シ住民ノ氣質ニ於テ勇猛性ヲ帶フ

三、住民中ニ自由放慢ニシテ鬭争性ヲ有スル「コサツク」多ク之等ノ「コサツク」ハ從来ノ「コサツク」村ノ自治ヲ破壊セラレ政権ヨリ各種ノ干渉ヲ受クルニ至リ内心不満ヲ抱キ居レリ

四、同地方ニハ數年來ノ国内戦ニ於テ「パルチザン」戦ニ

参加セシ住民多ク此ノ「パルチザン」戦ノ習慣ハ一時的ノ闘争性ノ習慣ト化シ事ヲ好ム露人ノ性質上ニ尚以上事ヲ好ム性ヲ増加セシメタリ

五、從来ノ国内戦及外國干涉時代ニ於テハ住民ノ意向ヲ他ニ転シ得タルモ平和時代ニ入ルニ及ヒ之ヲ他ニ転スヘキモノナク為メニ好事家ノ露人ハ漸次此好事癖利用ノ原ヲ生スルニ至レリ

六、後貝加爾地方ノ山岳密林等ハ「パルチザン」戦ニ適好ノ地形ニシテ変現出没自在ナル事ロ、近因

一、極東「ソヴィエト」化後予想ニ反シ政権ノ經濟的施設当ヲ得ス農產品價格ハ暴落シ工業品ハ暴騰シ農民ノ生活不安ヲ生シ又労働者ハ其收入頗ル少ク又生活豊ナラス此生活ノ不安ハ住民ヲシテ労農政権ニ対シ疑念ヲ挿ムニ至ラシメタリ

二、農民ハ共和主義ヲ解セス而ルニ共産黨員ハ濫リニ農村ニ進入シ自由平和ナル農村ニ干渉シ傷ク農民ノ反感ヲ增長セリ

三、政権ノ財力不足ニ起因スル苛斂誅求政策ニ依リ農民ハ

已ニ殆ント財産ヲ消耗シアル際トテ本年度徵收稅ハ農ノ不良ト相俟ツテ益々農民ノ反感ヲ增長セシメタリ

四、猶太人專横ニ閑スル一般的觀念農村迄モ普及セシ事五、在北滿白党ノ宣伝稍効果ヲ齎シタル事

二、反政権運動ノ状況

以上ノ如キ反政権氣分ハ極東勞農化後漸次醞釀セラレアリシカ昨年秋第一期納稅期ニ到来スルヤ俄然具體化スルニ至リ各種ノ納稅反対運動トナリ農村ニ於テ收稅官ヲ殺害シ或ハ各村ニ於テ不納稅決議ヲナシ又猶太人ノ排斥運動トナリ或ハ軍隊内ニ於テ猶太人「コミサール」ヲ殺害シ或ハ猶太人ノ国外ヘノ避難トナリ又農村共產黨員等ハ農民ノ氣勢ニ恐レ農民ヘ加担スルノ態度ヲ持スルニ至レリ此間ニ於テ公然武力ヲ以テ政権反対運動ヲ起セシハル「ネルチングスク」及「スレテンスク」付近ニ根拠ヲ有スル「シヤドナリ」「パルチザン」ナリキ彼ハ農民一部ノ援助ヲ得昨年十二月末其行動ヲ開始シ官憲ノ徵稅ヲ妨害シ鐵道電線ヲ破壊セリ茲ニ於テ政権ハ鎮圧ノ為赤軍ヲ派遣セシモ討伐意ノ如クナラサリシカ遂ニ一月六日辛シテ之ヲ擊破スル事ヲ得タリ然ルニ「シヤドリン」勦滅後ニ

五、「ネルチングスク」ニ於テハ「ラズモフニク」活動シアリ

六、「スレカансク」東北方「ガシムール」河畔「アルキ

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外関係 五二六

ンスカヤ」「カクタルギンスカヤ」「ウリュービナ」「ブジーンカン」等ノ諸村落ニ於テハ目下白党支隊編成中ナリ

三、本次反政権運動ノ特徴

本次反政権運動ノ特徴トモ称スヘキモノ左ノ如シ

一、勿論本次ノ反政権「バルチザン」ハ東支沿線ニ於ケル

白党ト關係ナキニアラサルモ從来ノ反政権運動ノ如ク國外白党ヨリ指導ヲ受ケシモノニアラスシテ全然後貝加爾

内ニ於テ独立的ニ蹶起セリ

二、各「バルチザン」ノ旗色ハ從來白党ノ標榜セシカ如キ

單ニ労農反対ニ非ラシシテ民意ヲ尊重シ農民ヲ基礎トル政権樹立ヲ夢想スルニアリ從テ民主主義ヲ標榜スルモノニシテ帝政主義ノ如キハ絶々否認シアリ

三、特ニ反猶太熱旺盛ナリ

四、各反政権運動ニ連絡少ナキモ極東一般ノ政情ハ殆ント一致的ニ各反政権運動ノ勃發トナリ自然ニ連絡ヲ有スル

カ如キ觀ヲ呈セリ

五、主トシテ農民ノ反政権運動ニシテ労働者ノ加担スルモノ未タナシ

而レ共「シャドリン」「スタリツク」ノ如ク武力ヲ擁シ政権ニ反抗スルモノニ對シテハ斷然武力ヲ以テ之カ討伐ニ向フモ之力討伐ニ向フヘキ軍隊ハ其素質過度ニ低下シ農民ト戰闘スルヲ好マス或ハ農村中ニ投シ或ハ一戦ノ後村落ニ逃入スル等政権ノタメ殆ント恃ムニ足ラサルノ狀況ニアリ又「バルチザン」側ニ於テハ赤軍ノ貧弱ナルヲ察知シ却テ赤軍ト連絡シ之等軍隊ヲ自己籠中ノモノタラシメント画策シアル有様ナリ

從シテ「シャドリン」討伐後ニ於テハ過般ニ赤軍ヲ賞揚シ其功績ヲ述ヘ聞ク処ニ依レハ最近政権ハ赤軍ニ對シ殊更給養ヲ良好ニナシツツアリト云フ要スルニ本次反政権運動ニ対シテハ政権ハ聊カ困惑ノ態ニシテ唯労働者ノ農民ニ加担セサルヲ唯一ノ恃ミトシアルノ狀況ナルモ労働者トモ必スシモ樂觀ヲ許ササルハ明ナリ

五、反政権運動ニ關スル将来ノ觀察

目下後貝加爾ニ活動シアル反政権支隊ハ其活動範囲局限セラレ单ニ交通線ノ破壊等ニ過キス殆ント政権ヲ左右シ得サルハ勿論ナリ然レ共本次ノ反政権運動ニ參加シアルモノノ言ニ依レハ現在行ハレツツアル反政権運動ハ單ニ

六、農村共産党ニシテ却ツテ農民ニ加担スヘキモノヲ生スク」付近即チ農民ノ文化比較的普及セル處ニ主トシテ反政権運動勃發シ未タ他ノ知多及其以西ニ見ス

ルニ至レリ

四、政権ノ反政権運動ニ對スル態度

農民ノ生活状態不良ニシテ其心情悪化シアルコトハ一般的ニシテ其原因スル處ハ要スルニ經濟状況ニ基因スルモノタルハ政権ノ夙ニ感知スル處ナリ從ツテ政権ハ農民ノ反政権氣分ニ對シテハ特ニ懷柔政策ヲ取り農民カ露国ノ中堅タルヘキヲ過度ニ賞揚シ又一部ノ免稅ヲ施行シ或ハ農村ニハ積極的ニ共産主義ノ極美ヲ宣伝シ其他各種場合ニ於テ農民ニ對シ賞賛的言辞ヲ弄シ一意農民ノ歎心ヲ求メンコトニ汲々タルモ如何セン已ニ經濟物質上ニ於テ脅威ヲ感スルニ於テハ如何ニ無知ノ農民ト雖モ共産政治ヲ謳歌スルヲ得サルナリ

要スルニ政権ハ反政権氣分ノ唯一原因タル經濟上ノ農村改善ヲナス事目下ノ處殆ント不可能ナルニ鑑ミ姑息的ナリト知リツツ单ニ農村民懐柔政策ヲナシアルノ狀況ナリ

ス

五一七 三月十四日 在シカゴ吉田領事ヨリ
松井外務大臣宛

米国ノソヴィエト政府承認問題ヘノ態度ニ付
キ当地新聞報道ノ件

公第二三号

大正十三年三月十四日

(四月七日接受)

在市俄古領事 吉田 丹一郎 (印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

中西部新聞紙上ニ表ハレタル米国政府ノ露國
「ソビエト」政府承認問題ニ闇スル件

本件ニ闇スル報告別紙ノ通り差進候間御查閱ノ上可然御取
計相成様致度此段申進候 敬具

本信写送付先 在米大使

中西部新聞紙上ニ表ハレタル米国政府ノ露國

「ソビエト」政府承認問題

米露国交再開ヲ希望スル米國政治家等ハ客年春夏ノ候ニ亘
リ露国々情調査ノ目的ヲ懷イテ渡露シ一応ノ調査ヲ遂ケテ
帰米シタルカ爾來政府當局ニ対シ両國々交再開ヲ促ス處ア

得ンカ露国承認問題ハ容易ニ之ヲ解決スルヲ得ヘシ而シテ
右ノ商業關係樹立ハ通商協約ナル形式ヲ以テ最善ナル方法
ト見做スヘク是レ他國カ露國ニ対シ現ニ実施シツツアル所
ノモノニシテ此種通商協約ハ相互ニ裨益スル所多カルヘク
遂ニハ自然的ニ露国承認ヲ見ルニ至ルヘシ勿論米露両國間
ニ於ケル貸借ノ問題ハ「ゼネバ」國際裁判所ノ審議ニ託シ
以テ之カ解決ヲ得ルヲ得策トナスヘシ云々」

如斯キ政況ノ進展ヲ目睹セル露国外務大臣「チェリーン」
ハ十二月十六日付ラ以テ米國大統領宛露国承認交渉開始ヲ
提議シ来リタリ依テ國務卿「ヒューズ」氏ハスル交渉開始
ノ是非如何ヲ審議スル所アリタリシカ遂ニ從來ノ政策ヲ変
更スル能ハスト宣明シ露国承認ノ条件トシテ先ツ第一米國
ノ對露債權ノ承認、第二「ソビエト」政府ノ沒收セル米國
市民ノ財產ニ對スル所有權回復或ハ損害ノ賠償、第三「ソ
ビエト」政府ノ外國ニ於ケル共產主義宣傳ノ撤廃等ヲ挙ケ
且ツ「クーリツジ」大統領ノ對露政策ニ對シ恣ナル幾多ノ
解釈ヲ施サルルヲ好マサルモノナリトノ旨ヲモ併セ述ヘ其
正式回答ハ Reval 駐在米國領事ノ手ヲ以テ露国外務大臣
「チェリーン」ノ手元ニ送付シタリ

リタルモノノ如ク大統領「クーリツヂ」氏ハ千九百十二年
十二月六日合衆國議會ニ於テ演説セル自己ノ政見中ニ於テ
對露問題ニ言及シ政府ノ本件ニ対スル態度ヲ中外ニ宣明シ
タリ

大統領「クーリツヂ」氏ノ声明セル處ニ依レハ對米債務ノ
償却、米國市民ノ私有財產所有權ノ回復及米國ニ於ケル共
產主義宣傳ノ廢止等ハ露國承認ノ必須条件ニシテ是等ハ正
当ナル國際關係ヲ維持スル上ニ於テ露國側ノ當然遵守セサ
ル可ラサル國際上ノ責務ニ外ナラスト

斯カル米國大統領ノ對露態度カ一度露國ニ伝ハルヤ其反響
ハ極メテ甚大ニシテ極東貿易局長 M. Shapiro 氏ハ「米國
大統領ノ演説カ米国人ノ露國投資ニ何等ノ障害ヲ設ケサル
ヲ喜フモノニシテ露國內ニハ外資ニ待ツ幾多ノ企業ノ機會
アリ」トテ陰ニ米国人ノ投資及商業的企図ヲ勧誘スル所ア
リタリ

曩ニ露国情勢ノ観察ヲ遂ケ米露国交ノ機到来セリトノ結論
ヲ懷抱セル「ウイスコンシン」州出身下院議員 James A.
Fiori ハ十二月十三日下院ニ於テ米露協商ヲ懲憲シ提議シ
テ曰ク「若シ先ツ単ナル商業的關係ヲ両國間ニ樹立スルヲ
リタリ

右ト同時ニ國務卿「ヒューズ」氏ハ「ソビエト」政府カ從
來ノ如ク今日モ猶米國內ニ於テ共產主義宣傳ヲ敢テ試ミツ
ツアル事實ヲ發表シ是レ吾人ノ露國承認交渉開始ヲ阻止ス
ル最大ノ理由ナリト述ヘタリ。「ヒューズ」氏ノ米国内ニ
於ケル共產主義宣傳ノ証跡トシテ挙ケタルモノハ The
Communist International ノ首領 Zinoviev カ在米國共產
主義宣傳機關ナル The Workers Party of America ニ宛
テタル共產主義宣傳方法ニ闇スル教示書ニシテ同氏ハ右ノ
實例ニ基キ「ソビエト」政府ト共產主義運動ノ到底分離ス
ヘカラサルモノナルコトヲ力説シ彼等ノ目的ハ米國ノ凡テ
モノニシテ此次ノ交渉開始ノ要求ハ此種方法ニ依リ米國ノ
機関ヲ破滅ニ導キ替フルニ赤旗ヲ白旗館ニ掲ケントスル
米露交渉ノ進展ニ注目シ日頃親露的態度ヲ抱ケリト評セラ
ル「アイダホ」州選出共和黨上院議員「ボラー」及「ネ
ブラスカ」州選出共和黨上院議員「ノウリス」両氏ハ十二月二十
日上院ニ於テ曩ニ「ヒューズ」國務卿ノ對露回答中ニ挙
ケタル米国内ニ於ケル共產主義宣傳ノ証拠ニ付テ駁撃スル
所アリ「ヒューズ」氏ノ証拠トナス所ノ事實ハ未タ信スル

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外関係 五一八

八四二

ニ足ラス「ソビエト」政府ハ過去三ヶ年間ニ於テ自ラスカ
ル宣伝ヲナシタルコトナシト述ヘ若シ米国内ニ一人タリト
モ此種宣伝者ヲ見出サンカ自分ハ直ニ露国承認賛成ヲ取消
スヘシト發表シ「ヒューズ」氏提供ノ証拠ハ真実ナルモノ
ニアラスシテ無価値ナリト言ヒ放テリ即チ「ボラー」及
「ノウリス」両氏ト「ヒューズ」氏間ノ争点ハ The Third
International ト「ソビエト」政府間ニ必然的ナル交渉関
係アリヤ否ヤニ存スルモノノ如ク両上院議員ハ無シト主張
シ「ヒューズ」氏ハ存在スト力説スルモノニ似タリ。

然ルニ「ソビエト」政府ハ同月二十日「ヒューズ」氏ノ攻
撃ハ根拠ナキモノナリトシテ其ノ事実ノ存在ヲ否定スル
回答ヲ發表シ「ソビエト」政府ハ斯ル種類ノ教示或ハ他ノ
如何ナル教示ヲモ米国労働党又ハ他ノ機関ニ対シ為セルコ
トナシト説キ吾人ハ仲裁々判ノ審議ニ付スルヲ躊躇セスト
公表シ「ヒューズ」氏ノ所謂証拠ハ偽造ニカカルモノナリ
ト高調セリ然ルニ米国々務省及司法省ニ於テハ前記証拠ハ
動カス可ラサル事実ニ基クモノナルコトヲ再応反覆シ該書
簡ハ「ソビエト」政府ヨリ出テタルモノナルコトヲ證明シ
得ヘシト宣言セリ

「ノウリス」両氏ト「ヒューズ」氏間ノ争点ハ The Third
International ト「ソビエト」政府間ニ必然的ナル交渉関
係アリヤ否ヤニ存スルモノノ如ク両上院議員ハ無シト主張
シ「ヒューズ」氏ハ存在スト力説スルモノニ似タリ。

然ルニ「ソビエト」政府ハ同月二十日「ヒューズ」氏ノ攻
撃ハ根拠ナキモノナリトシテ其ノ事実ノ存在ヲ否定スル
回答ヲ發表シ「ソビエト」政府ハ斯ル種類ノ教示或ハ他ノ
如何ナル教示ヲモ米国労働党又ハ他ノ機関ニ対シ為セルコ
トナシト説キ吾人ハ仲裁々判ノ審議ニ付スルヲ躊躇セスト
公表シ「ヒューズ」氏ノ所謂証拠ハ偽造ニカカルモノナリ
ト高調セリ然ルニ米国々務省及司法省ニ於テハ前記証拠ハ
動カス可ラサル事実ニ基クモノナルコトヲ再応反覆シ該書
簡ハ「ソビエト」政府ヨリ出テタルモノナルコトヲ證明シ
得ヘシト宣言セリ

「ノウリス」両氏ト「ヒューズ」氏間ノ争点ハ The Third
International ト「ソビエト」政府間ニ必然的ナル交渉関
係アリヤ否ヤニ存スルモノノ如ク両上院議員ハ無シト主張
シ「ヒューズ」氏ハ存在スト力説スルモノニ似タリ。

然ルニ「ソビエト」政府ハ同月二十日「ヒューズ」氏ノ攻
撃ハ根拠ナキモノナリトシテ其ノ事実ノ存在ヲ否定スル
回答ヲ發表シ「ソビエト」政府ハ斯ル種類ノ教示或ハ他ノ
如何ナル教示ヲモ米国労働党又ハ他ノ機関ニ対シ為セルコ
トナシト説キ吾人ハ仲裁々判ノ審議ニ付スルヲ躊躇セスト
公表シ「ヒューズ」氏ノ所謂証拠ハ偽造ニカカルモノナリ
ト高調セリ然ルニ米国々務省及司法省ニ於テハ前記証拠ハ
動カス可ラサル事実ニ基クモノナルコトヲ再応反覆シ該書
簡ハ「ソビエト」政府ヨリ出テタルモノナルコトヲ證明シ
得ヘシト宣言セリ

合衆国上院ニ於テハ兎モ角モ「ロッヂ」氏ヲ委員長トセル
外国關係委員ノ手ニ託シ更ニ本件ニ関シ慎重ナル審議ヲ告
クルノ必要ヲ認メ同問題ハ該委員会ニ付託スルニ決セラレ
タリ。

五一八 三月二十五日(着) 在満州里田中領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

チタ方面ノ政情ニ関シ報告ノ件

第三六号

先週齊多ヘ往復セル当地猶太人(其弟ハ齊多ニ於テ検事タ
リ)ノ談話左ノ通り

(一) 齊多ニ於テ拘禁中ノ日本人士井及小林ノ両名ハ「ペベリ
ヤーエフ」ニ武器ヲ供給セルヤノ關係ヲ以テ同軍ト共ニ
逮捕セラレ目下裁判中ニ在リ

(二) 露支交渉ニ関シ齊多ニ於テ示威運動アリ群衆ハ東支鉄道
占領ヲ要求セリ当局ハ本問題ニ関シテ比較的平氣ナルカ
如シ

(三) 人民ノ対日感情ハ良好ナラサルモ當局者ハ結局日露交渉
成立スルモノトシテ樂觀的ナリ

(四) 軍隊輸送ハ矢張続行シツツアリ市内ニハ兵卒巡警等容易

ニ見当ラス市中秩序好ク平靜
在支公使ヘ転電セリ

五一九 四月九日 堀内長崎県知事ヨリ
松井外務大臣宛

在仏ノ帝政派ヨリ反過激派ノ糾合ヲ目的トシ
テ対セミヨーノフ工作行ワレタリトノ情報ニ

閥スル件

外高秘第七三号

(四月十二日接受)

長崎県知事 堀内 秀太郎

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

「セミヨーノフ」ト反過激運動ニ閥スル件

一、最近在仏「ニコライ」大公ヲ主脳トスル帝政派ノ者ハ
一般反過激派ノ者ヲ糾合シテ帝政派ヲ組織セントスルノ
計画アリ即チ最近極東方面ニ於テハ上海、哈爾賓ヲ根拠
トシテ此計画ニ着手シ居ル事実アリテ最近「セミヨーノ

フ」ニ対シテモ此計画ニ参加シ相提携スヘキ様申込ミ來
レルカ彼ハ次ノ如キ回答ヲ發シタリト云フ

「若シ多数ノ民衆カ帝政ヲ要求セハ余モ亦該計画ニ贊同
六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外関係 五一九 五三〇

シ報告ノ件

「右ノ運動ハ真ニ帝政復興ヲ目的トセルニ非ス察スル処
「ポチャーギン」事件ノ解決並ニ「セミヨーノフ」名義
ニナリ居リテ支那官憲ノ手中ニアル金塊ノ分配ヲ目的ト
セルモノニ非サルカ」

在仏國石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

仏國ノソヴィエト政府承認問題ヘノ態度ニ關

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外関係 五一九 五三〇

八四三

第二七八号 (六月二十八日接受)

一、本月二十日外務省ニ於ケル対露利害關係者ノ会合ニ開シテハ露字新聞獨リ報道シ居ル處之ヲ総合スルニ

(イ) 実業家、銀行家ハ露國ノ無条件承認ニ反対シ承認前仮国人ノ債権及在露財産ニ關シ保証ヲ取付クヘキコトヲ主張シ少額債権承認ニ關スル勞農ノ声明ノ如キ当ニナラスト為シタルカ如シ

(ロ) 「エリオー」ハ露國承認前相当準備ヲ為スヲ要スト声明シタルモ右会合參列者ハ露國承認ハ主義トシテ既ニ決定セル處ニシテ關係者ノ意見ヲ徵スルハ承認後ニ於ケル交渉ノ基礎ヲ見出スニ在リトノ感想ヲ得タル由

(ハ) 前内閣時代ニ露國承認ニ關シテハ同一歩調ニ出テタ旨米國政府ト申合ハセタル行懸リナカリセハ仏國ノ露國承認ハ早カリシヤモ知レス

11' Nouvelle Amitié Franco-Russe ナル協会、Herriot, Monzeie, Painlevé, Combes, Daniel, Berthelot 等ニ依リ組織セラレ「ナカヌーニュ」新聞ノ記者之カ會員タリ在歐各大使、波蘭、リガヘ郵報セリ

五三一 六月二十八日 在仏國石井大使宛（電報）
ソヴィエト政府承認問題ヲ検討ノタメ仏國政府ハ特別委員会ヲ組織セリトノ報道ニ付キ報

告ノ件

第四〇九号 (九月十三日接受)

新聞報

労農承認ニ關シ曩ニ「エリオ」ハ民間利害關係人ノ意見ヲ求メタルカ今回更ニ特別委員会ヲ組織シ之カ準備ヲ為サンマルニ決シ十一日 Demonzie ヲ議長ニ任命シ追テ Fromageot, Noulens 等五名ノ委員ヲ任命スル筈ナルカ總委員會ハ十月初旬第一回集会ヲ催シ Fromageot ノ起草スヘキ露國承認ニ關スル公文ヲ審議スヘシト

英、波蘭、リガヘ郵送セリ

五三二 十月二十五日 在仏國石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

仏國政府ノソヴィエト政府承認決定ニ至リシ

経緯ニ付キ報告ノ件

機密公第一一五号 (十二月三日接受)

大正十三年十月二十五日

在仏

特命全權大使子爵 石井 菊次郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

仏國政府ノ労農政府承認ニ關スル件

五六三

五三一 六月二十八日 在仏國石井大使

幣原外務大臣宛（電報）

仏國モ近クソヴィエト政府ヲ承認スル形勢ニ

付キ報告ノ件

第二八〇号 (六月二十九日接受)

「ショビー」ノ「サビツキー」ニ内話スル處ニ依レハ仏國政府ハ英國ノ例ニ倣ヒ先ツ労農政府ヲ承認シ各種懸案ニ對スル交渉ハ承認後ニ之ヲ為スコトニ決シ労農政府ニ送ルヘキ電報案既ニ政務局長ニ於テ起草済ニテ「エリオ」ノ裁決ヲ得ル許リトナリ居リ晚クモ来週中ニ発送セラルヘシトノコトナリ尚「シュ」ハ大蔵大臣ヨリ仏國代表トシテ露國行ノ意向ナキヤヲ問ハレタルニ対シ受諾シテモ宜キ旨答ヘタル由ナリ

在歐各大使ヘ転電シ、波蘭、芬蘭、リガヘ暗送セリ

五三二 九月十一日 在仏國松島臨時代理大使ヨリ
ソヴィエト政府承認問題ヲ検討ノタメ仏國政府ハ特別委員会ヲ組織セリトノ報道ニ付キ報

告ノ件

仏國現首相「エリオ」氏ハ其ノ在野當時ニ於ケル労農政府ニ對スル持論ニ顧ミ又現政府ヲ支持スル社会党一派ノ主張ニ鑑ミ早晚労農露國ノ承認ヲ実行スヘシトハ一般ニ期待セラレタル所ナルモ仏國ノ對露債権ハ英國ノ夫レト異リ多數ノ小額露國債券所有者ニ属スルヲ以テ之ニ對スル保証ヲ確保スルコトナクシテ無条件ニ労農露國ヲ承認スルトキハ多數仏國民ノ反対ヲ招致シ延テ内閣ノ運命ニモ關係スルヲ以テ対露債権者ノ利益保護ノ途ヲ講スルノ必要ニ迫ラレタルカ之ヲ英露談判ノ例ニ見ルモ労農政府ハ旧債務ノ一小部分ノ返還ニ対シ保証ヲ与フルノミナルヲ以テ旧債務ノ承認ヲ露國承認ノ条件トナスニ於テハ労農政府カ之ヲ拒絶スヘキコト同政府從來ノ態度ニ照ラシ明白ニシテ「エリオ」内閣ハ進退兩難ノ窮地ニ陥レルノ觀アリ然リト雖モ露國トノ国交恢復ハ同内閣外交政策ノ一大綱領ナルヲ以テ何トカシテ此ノ窮地ヲ脱出スルノ必要アリ或ハ民間利害關係人ヲ集メテ其ノ意見ヲ徵シ以テ露國承認後ニ於ケル交渉ノ基礎ヲ見出サムトシ或ハ仏國人ノ露國入国問題ニ藉口シテ労農ノ意向ヲ探り或ハ対露商議開始準備委員会ヲ設ケテ露國承認案ヲ審議セシメタルカ同委員会ニ於テハ条件付承認ハ到底

実現シ難キ故ヲ以テ之ヲ採用セサリシモ純然タル無条件承認説ト露國承認ハ仏國ノ権利ノ拋棄ヲ意味セストノ留保ヲ付シテ承認ヲ与ヘントナス説ト二派三分レ委員会ハ両説ヲ

首相ニ報告シテ其ノ採択ニ委ネタリトノコトナリ
右両説ノ内孰レヲ採用スルトモ露國承認後ニ於テ開カルヘ

キ交渉ノ談判ニ影響スル所無カルヘク所謂留保ノ如キ一種ノ氣休メニ過キス又承認ノ實際的効果ニ至リテハ今後ノ交渉ニヨリ定マルヘキモノニシテ「ド・モンズイ」一派ノ高唱スルカ如ク仏國資本ニ依リ露國ノ産業ヲ復興セシメ之ニ依リ得ラルヘキ利益ニヨリ旧債權ヲ償還スルノ計画ヲ実現シ得ヘキヤ否ヤ英露交渉ノ成果ニ徵シ頗ル疑ナキヲ得スト

雖モ「エリオ」首相ハ其ノ年来ノ主張ト近ク開カルヘキ議會ニ於テ社会党ノ支持ヲ期待スル必要トニ鑑ミ露國ノ承認ヲ敢行スルニ至ルヘシト推測セラルル處情報ニ依レハ来ル

二十八日ヲ以テ勞農政府承認ニ関スル電報ヲ莫斯科ニ向テ發スルコトニ決定シタル趣ナリ

本件ニ關スル詳細ハ別添調書^{(註)省略}ニ依リ御諒知相成度此段及報

告候 敬具

電第二二号ヲ以テ詳細電報御参考ニ供シタル通リノ処其後英露条約締結セラルアリ而シテ該条約ニハ英國政界実業界ノ反対頗ル激甚ニテ果シテ議会ノ協賛ヲ得ヘキヤ否ヤ目下ノ處疑問トセラルニ拘ラス勞農政府ノ地位ハ右条約締結ノ事實ノミニ依リテ現ニ一層強固ヲ加ヘタルヤノ感アリ加之仏國ニ於テモ「エリオ」内閣ハ勞農政府ノ承認乃至ハ之トノ交渉開始ニ關シ最近準備ヲ進メ居ルモノノ如ク諸般ノ形勢右拙電ニ開陳セル卑見ヲ修正セシムルニ至ラスト愚考ス夫レハ兎モアレ又過般來北京ニテ行ハレ居ル日露交涉カ如何ナル結果ニ到達スルヤノ問題モ暫ク之ヲ措キ茲ニ帝國ニトリ最モ緊要ニシテ且急速着手ヲ要スルハ所謂赤化防止ノ手段ニシテ之ハ日露交渉カ再度決裂スルト將又或種ノ協定ニ達シ国交回復スル場合トニ拘ラス過激派化セル露國人ヲ隣人トスル間ハ何レノ場合ニモ我自衛策トシテ必要トスル處ニシテ之等ハ邊境ノ地ニ在ル本官等カ彼是申立ツル迄モナク本省ハ勿論内務當局ニ於テ夫々必要ノ手段ヲ講セラレ居ルモノトハ信スルモ本邦新聞雑誌等ノ報道ニ依リ承

知スル限りニテハ遺憾乍ラ各般ノ措置未タ徹底ノ域ニ達セサルノ感アリ加之青年社會ハ更ナリ一部若手教授若クハ知

五三四 十月三十日(着) 幣原外務大臣ヨリ
各宛(電報)
ソヴィエト政府承認ニ関スル仏國政府ノ意向

通報ノ件

合第二七〇号

在本邦仏國大使ハ本国政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ本月二十四日付書翰ヲ以テ同國政府ハ莫斯科政府ヲ正式ニ承認スル意向ニシテ右承認ハ仏國カ第三國ト締結シタル如何ナル條約ニモ累ヲ及ホスコトナカルヘキハ勿論ナル旨通告シ来レリ

右御参考迄ニ電報ス
本電在欧米各大使ヘ転電アリタシ

五三五 十一月五日(着) 在ボーランド國佐藤公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

對露政策ニ關シ反過激主義ノ國內啓蒙活動十
ド赤化防止手段ヲ講ズル必要アリト考エラレ

ルニ付キ意見具申ノ件

第六一號 (極秘)(郵送)

帝国政府ノ對露政策ニ關スル卑見ハ潛越乍ラ去ル三月中往

識階級中ニモ現在勞農露国内ノ表面的制度ニ憧憬シ如何ナル惡政暴虐ヲ以テ右制度カ運用セラレツツアリヤノ内幕ヲ研究スルコトナク直ニ勞農政府ノ範ニ倣ハントスル思想上ノ傾向漸次著シキモノアルカ如ク今ニシテ照魔鏡ヲ照ラシテ革命ノ結果ヲ發キ之等ノ誤解ヲ解キ思想善導ニ努ムルニアラサレハ立國ノ基礎ヲモ危ウカラシメントスルヤニ危惧セラル而シテ思想問題ノ解決ニハ政治家ハ勿論教育家、宗教家、官吏、軍人ヲ挙ケテ之ニ当リ國家國民協力シテ一定ノ方針ノ下ニ全力ヲ傾注スルヲ要スヘク即チ過激主義ノ宣伝ニ先立チ反「ボルシェヴィズム」ノ宣伝ヲナスマヲ要ス然ラハ何ヲカ一定ノ方針ト云フヤ本問題ニ對シテハ以下過激主義宣伝要旨ノ決定及該宣伝方法ノ選定ニ別子聊カ卑見開陳セントス

(一) 反過激主義宣伝ノ要旨

本問題ハ為政當局者、政治家、教育家、宗教家等ニ依リ合議決定セラルヘキモノナルモ其ノ要旨トシテ左ノ數項ヲ擎ケ得ヘシ

イ、「レニン」一派ノ所謂過激主義カ日本帝國ハ勿論現存セル凡テノ文明國ノ國家的觀念ト一致セサルモノナルコ

ト

ロ、「レニン」並ニ其ノ後繼者ハ恐怖政治ヲ以テ其ノ政權ヲ維持シ居ルモノニシテ彼等力革命當時声明セル言論集会結社ノ自由ハ全然存在セサルコトハ、名ハ賤民独裁ナルモ彼等ノ設ケタル制度ハ少數幹部ノ專制ニシテ毎年行ハル共産党大会同党中央委員会ヲ始メ其他各種ノ会合ハ全ク幹部ノ意思通ニ左右セラレ會議組織ノ体裁ヲ為セルモ其ノ實有名無美ナルコト

二、共産党ハ階級戦争ヲ綱領トシ而シテ賤民ノ独裁ハ他ノ列国内ニ於テ同様ノ階級戦争ヲ惹起セシメサル限り其實現覚束ナキ關係上世界革命ヲ目的トスル第三「インター・ナショナル」ノ組織ヲ見タル次第ニシテ即チ露國共產党ト第三「インター・ナショナル」トハ同一体ノモノト觀ルヘキコト上田書記官情報ニモ屢々記述シアル處ナリ而シテ世界的革命ヲ企図シ乍ラ勞農政府カ他ノ文明諸國ト国交ヲ回復シ條約ヲ締結スルハ共產党ノ存在ト全然矛盾セル遭方ナルモ之ハ自己ノ命脈ヲ保持セムカ為自党綱領ノ重要ナル一部ヲ一時放棄シ之ヲ犠牲トシ居ルニ過キス而シテ共產党ノ政府カ努メテ第三「インター・ナショナル」ト全然別個独立ノ行政機關ナリト宣伝シ居ルハ即チ以上ノ矛盾ヲ覆ハムトスルモノニ外ナラス此故ニ勞農政府ト第三「インター・ナショナル」トノ同一体論ヲ唱ヘラルハ即チ彼等ノ最痛シトスル処ニシテ彼等ノ急所ヲ突クニ等シ我反「ボルシェヴィズム」ノ宣伝ハ充分彼等ノ弱点ニ乘スルヲ要シ他方我國民ヲシテ勞農露國ノ宣伝ニ乗ルハ即チ第三「インター・ナショナル」ノ手先トナルヲ意味シ引テ露國共產党ノ傀儡タルニ安ンスルモノナル所以ヲ明ニ理解セシムルヲ要スヘシ（斯ク觀察シ來レハ往電第二二号ノ如ク勞農政府ヲ承認スルハ無意味ナリトノ反論ヲ生スヘク又純理上其通リナルヘキモ列國一致シテ露國ヲ孤立セシメ居リタル間ハ別トシ列國ノ態度区タルニ至レル今日本邦トシテハ我立場ヲ中心トスル政策上ノ見地ヨリ反「ボルシェヴィズム」ノ宣伝ニ尽力スルノ必要ヲ提倡セムトスルモノナリ）（露國ノ革命ハ社会的改革ニシテ経済生活ノ改善ニ基礎ヲ置クニ拘ハラス革命後七年ヲ経過セル今日生産力ハ著シク減退シ工業ハ戰前ニ比シテ衰弱シ物価ノ高キコト世界中其ノ比ヲ見スト称セラレ國民ノ生活ニ聊モ改善ノ跡ヲ見ス財政經濟

ノ破綻亦遲々トシテ復旧セス教育文化ノ施設悉ク廢頽セルモ財源欠乏シテ理想ノ制度ヲ実行スルコト能ハス即チ是等ノ事実ヲ指摘シテ勞農當局ノ奉スル學說ト實際ト力全然逆行シツツアル実情ヲ周知セシムルコト

ヘ、此種宣伝ニハ露國ノ内政ニ容喙シ是レヲ批判セントスルモノニ非ル所以ヲ明白ニ声明スルヲ要スヘシ即チ勞農露國ノ運命ハ彼自ラ是レヲ決スヘク帝國政府ハ毫モ其ノ内政ニ干渉スルノ意思無キト同時ニ其ノ内政ノ良否ニ付テモ批評ヲ加ヘントスルモノニ非ス唯勞農露國ニ現ニ行ハレツツアル制度若ハ勞農當局者カ現ニ執リツツアル手段ハ是レヲ移シテ他ノ文明國殊ニ日本ニ用ユヘカラサル所以ヲ明ニスルニ止ルノ趣旨ヲ明言スヘシ蓋シ勞農側カ反過激主義宣伝ヲ更ニ自己ニ都合ヨキ宣伝ニ利用スルヲ予メ防止スル用意ナカルヘカラス

(二) 反過激主義宣伝ノ方法

本問題モ本邦當局者ニ於テ特ニ考究セラレタル處ニシテ茲ニ卑見ヲ述フルハ蛇足ヲ加フルニ等シカルヘキモ私ニ考フル處ニ依レハ上述ノ宣伝ハ學生軍人各種青年団慈善団婦人会各市町村及府県ニ於ケル各種ノ團体若ハ会合並新聞ニ對

シ普ク之ヲ行フヲ要シ殊ニ学生ニ對シテハ中等教育程度ノモノヨリ之ヲ始ムルヲ要スヘク而シテ上記ノ方法貫徹ノ為（一）ニ述ヘタル綱領ニ尽ササル處ヲ補ヒ之ニ基キテ各種ノ宣傳資料ヲ編纂シ教育ノ程度若ハ知識ノ程度ニ応シ適當ノ資料ニ依リ健全ナル思想ヲ注入スルノ手段ヲ講スルコト今日ノ急務ト思考ス

尤モ以上ノ如ク各方面ニ亘リ宣伝ヲ為スカ如キ案ハ些カ奇矯ニ奔ルヤノ感アリ殊ニ本邦ノ如キ国情ニ在リテハ官吏自ラ宣伝ニ当ルヲ難シトシ若ハ教育家自身斯ノ如キ新規ノ宣伝ニ從事スルヲ躊躇ス等ノ事情アリテ實行困難ナルヤモ測リ難シト雖凡ソ思想問題ノ解決ニハ比較的大規模ノ方法ヲ用ヒサレハ其実効ヲ收ムルコト不可能ナルヘキニ付テハ未タ類似ノ計画実行ニ至ラサルニ於テハ我當局者ニ於テ此際断然新規計画ノ企図ヲ試ミラル様希望ニ堪ヘス

恰モ國定教科書編纂ノ方針ヲ以テ進マハ決シテ不可能ノ事業ニハ有之間敷クト信ス而シテ斯ノ如キ大規模ノ宣伝ハ國家自衛ノ策タルト同時ニ勞農當局ニ對シテハ一種ノ脅威トルヘク彼等ハ多分我當局者ノ遣口ニ對シ非常ノ不満ヲ洩ラスヘキモ其不平ノ半面ハ即チ我ノ侮ルヘカラサルヲ（脱）

証左ニ外ナラサルカ故ニ寧ロ我勝利ト為スヘク労農相手ノ各般ノ交渉モ或ハ之カ為ニ却テ解決ヲ迅速ナラシムルヲ得ヘシ

以上述フル所ハ國家自衛ノ見地ヨリスル當然ノ方策ニシテ別ニ新規ノ考案ニ非サレトモ其ノ目的トスル所ハ即チ国民ノ思想ヲ健全ニシ他ノ誘惑ニ惑ハシメサラントスル用意ニ

外ナラス然レトモ以上ノ方策ノミヲ以テシテハ決シテ万全ヲ期ス可カラス國民思想ノ清淨ヲ計ルト同時ニ對外万般ノ制度ヲ改善シテ時運ノ趨向ニ伴ヒ國民ヲシテ其ノ堵ニ安ンシ生業ニ励マシムルヲ要スルコト勿論ニシテ國民ノ生活難著シク緩和セラルニ非サレハ如何ナル努力ヲ以テスルモ思想ノ健全ハ期シ難カル可シ之即チ物価調節、衛生状態ノ改善、上下水ノ修築、道路、鐵道、治水工事、就業難ノ緩和将又人口問題ノ根本的研究等ハ本邦ニトリ皆國家ノ急務トナス所以ニシテ茲ニ思想問題ニ對スル宣伝ノ緊急実行ノ必要ヲ上申スルト同時ニ大宣伝⁽²⁾ニ各般ノ社會問題改善ト相俟テ初メテ実効ヲ收メ得ヘキモノナル事ヲ容認セラレム事ヲ希望ス

編註

原文「ニ」ヨリ「ヘ」ニ統キ「ホ」ヲ欠クモノノ部分

ガ「ホ」ニ該当スルモノト思ハル

日本ハ英、仏トハ立場ガ異ナル故英仏ノソヴィエト政府承認ニ徒ラニ追随スル必要ナキ旨

意見具申ノ件

第七六号

(十一月十三日接受)

我日本ニ於テハ英、仏カ労農政府ニ正式承認ヲ与ヘタルヲ見テ我モ之ニ倣フヘシト主張シ甚タシキニ至リテハ宝ヲ持腐ラシ時機ヲ逸シ承認ヲ無価値ニシタリトシテ大國民ニアルマシキ卑劣ノ根性ヲ以テ當局ヲ攻撃スルモノ少カラサル趣ナルカ本官ヲシテ言ハシムレハ右ハ第一露国ヲ解セス第二日露両國ノ特殊關係ヲ知ラサルモノノ囁語ニシテ誤レルノ甚タシキモノトシ英仏ノ露国ニ對スル關係ハ帝國ノ夫レト趣ヲ異ニス帝國ハ露國ト接壤密接ノ關係ヲ有スル為露國民ヲ眼中ニ置キ火事場泥棒的態度ヲ避クルヲ要スルモ英露ノ利害ハ伝統的ニ衝突シ又露仏ノ關係ハ今ヤ單ニ財政經濟的トナリタルヲ以テ英仏ハ露國ニ對シ其目的ヲ達セントスルニ付露國民ヲ無視シテ火事場泥棒的態度ニ出ツルヲ得之カ為露國ニ對スル英仏債權國ハ

- 一、労農政府カ露國民ノ政府ニアラサルコト
- 二、同政府ノ命脈ニ限リアルコト
- 三、同政府ハ恐怖政治及内外宣伝ニテ命脈ヲ保テルコト
- 四、露國現制度ノ下ニ於テハ通商行ハレサルコト
- 五、同政府ヲ承認スレハ露國民ヨリ恨マルコト
- 六、承認ハ後ル程有利ニシテ之ヲ急クハ不利ナルコト
- 七、同政府ハ約束ヲ守ラサルコト

等ヲ篤ト承知スルモ第一債權トシテ何等ノ担保物ヲ押ヘ居ラス第二先方ノ宣伝ニ氣触レタル国内ノ俗論ハ労農政府承認ヲ迫リ第三露國民ニ遠慮スルノ必要ナキ關係上危險ヲ冒シ同政府ニ承認ヲ与ヘテ之ト談判シ又ハ談判セントスル次第ナルモ若シ英、仏カ我國ノ如ク労農政府勢力圏外ニ於テ担保物ヲ押ヘ居ル場合ニハ同政府ニ承認ヲ(脱)愚力之ト談判スルコトモ無カルヘシ故ヲ以テ帝國カ北樺太ノ富源ヲ押ヘ居リ乍ラ同富源ニ關シ同政府ト談判スルコトハ定メシ英、仏人ノ目ニ滑稽ニ見ユルナルヘシ露國ハ今尚内乱狀態ナルヲ以テ帝國カ同富源ヲ押ヘ居ルコトハ露國ニ対シテハ問題トナラサルヘキモ帝國ハ北薩哈連併有ニ類スル態度乃至之ヲ買収セントスルノ意ヲ洩シタル為露國民ハ排日論

在リガ上田書記官ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

五三六 十一月十二日

八五一

談判ヲ纏メサル覚悟方針ヲ以テ出来得ル丈ケ永ク引ツ張リ
テ同政府ヲ可然弄ヒ出来得ヘクハ外交代表者ヲ交換シ其間
ニ一面ニハ北薩哈連ニドシ資本ヲ注キ込ミテ事業ヲ営

ミ他ノ一面ニハ露仮談判ノ結果如何ヲ注意シ若シ同談判カ
好結果ヲ奏シ而モ米國カ仮國ニ倣ハントスルニ至リタル場
合ニハ我ハ徐ニ同政府ニ承認ヲ与ヘ之ト條約ヲ締結シテ可

ナルヘシ同政府承認ハ速カナルカ得ニシテ遅ラスハ損ナリ
トノ言ハ同政府ヲ買ヒ被リタル説ナリ殊ニ同政府ノ在外公

館ハ第三「インター・ナショナル」ノ宣伝機關タル關係上同
政府ヲ承認シタル國ニハ公館員ノ名ノ下ニ數百名ノ宣伝員
乗リ込ムヲ常トスルヲ以テ帝国ハ承認ニ先タチ之カ取締ヲ
講スルコト必要ナリ要スルニ帝国ハ政治及經濟上露国民ト
密接ノ關係ヲ有シ而モ労農政府權力範囲外ニ担保物ヲ押ヘ
有利ノ地位ニアルヲ以テ将来ノ利益ノ為出来得ル丈承認ヲ
遙ラスコト必要ナリト信ス

英、仏、独、波蘭、漢堡へ暗送セリ

五三七 十一月二十八日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛

ソヴィエト政府承認問題ヲメグル最近ノ英仮

機密公第一三〇号 (大正十四年一月十八日接受)

大正十三年十一月二十八日

在仮

特命全権大使子爵 石井 菊次郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

最近英仮關係ニ付当地某新聞外交主筆ノ内談

ニ闇スル件

英國總選舉後ニ於ケル政況等視察ノ為約十日間倫敦ニ赴キ
最近帰巴シタル當地某紙外交主筆カ英國新内閣成立前後ニ
於ケル英仮兩國政府ノ關係ニ關シ大要別紙ノ通り横山ニ内
話シタル趣ニ付何等御参考迄及報告候 敬具

本信写送付先 在英大使

先ツ「エリオ」カ労農承認ヲ英國總選舉ノ前日ニ至リ決行
シタルコトニ付英國保守党ノ大部分ハ之ヲ以テ「マクドナルド」ノ使嗾ニ基ケルモノト確信シ居リ自分ノ聞ク所ニテ
ハ「エリオ」ハ毎週二三四回位「マクドナルド」ト文書往復
ヲ為シ労働党ハ總選舉ニ際シ五十名位ノ増加ヲ見ルヘシト
ノ同党ノ宣伝ヲ輕信シ且内心其ノ然ランコトヲ祈リ居タル

モノラシク若シ労農承認ニ依リ間接ニ親友「マクドナルド」ヲ声援シ其ノ勝利ヲ齎ラシ得レハ一層都合ヨク一拳両
得ノ策ナリト考ヘ俄ニ之ヲ断行セルモノト認ムヘキ理由ア
リ本件ニ關シ先頃仮政府ハ斯ル想像説ヲ全然否認スル旨ヲ
公表セルモ英國現政府ニテハ今尚感触ヲ害シ居ルコト明確
ナリ

從来ノ例ニ依レハ新政府組織後首相又ハ外相ヨリ仮首相宛
ニ挨拶ノ電報ヲ發スルコトナリ居レルニ拘ラス「チエン
バーレン」ハ此拳ニ出テス其ノ以前自分カ外相就任前同氏
ト会食ノ機會ニモ既ニ「エリオ」ニ対スル不満ヲ告白シ居
リタル程ナルカ十一月八日土曜日在仏英國大使「クリュ
ー」ヨリ同外相ニ対シ右電報發送方ヲ請求シ來レルニ対シ
同外相ハ其ノ儀ニ及ハスト回示セル由ナリ唯タ仮國側ノ感
情ヲ余リニ害スルハ宜シカラストノ考ヨリ「ボルドウイン」
首相ノ「ギルドホール」ノ演説中御承知ノ通リ仮國ニ対ス
ル御世辞ヲ述ヘタルニ止メタリ

「エリオ」ハ労農承認カ労働党援助ノ為ナリトテ英國新當
局者ノ感触ヲ害セリトノ報道カ内政上反対党側ノ利スル所
トナルヲ恐レ前述ノ打消ヲ公表セル外英國新政府ニ対シテ

六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト对外関係 五三七

尚茲ニ面白キ事件ハ「ギルドホール」演説ノ当日(十一月
十日)英政府ハ在仏大使ニ訓令シ「仮國政府カ今回労農ニ

八五三

「エルベット」土耳其ニ「フランクラン・ブイヨン」ヲ夫

夫大使トシテ任命セラルトノ報道ハ英國政府ノ驚異ヲ以テ迎フル所ナリ両氏ハ何レモ反英的人物トシテ公知ノ人々ナルニ英仏間ノ利害關係最機微且重要ナル莫斯科及ヒ「アングラ」ニ斯ル人々ヲ送ラルハ英國現政府ノ喜ハサル所ナリ』トノ趣旨ヲ仏政府ニ申込ムヘシト命シタルコトアリ英大使ハスル不愉快ナル使命ヲ帶ヒ余程困却シタル模様ナルモ兎ニ角訓令ヲ執行シ唯其ノ際英首相ハ仏政府ニ対シ充分ノ好意ヲ有シ両國間ノ親善關係ヲ重要視スルモノナリトノ伝言ヲ命セリ等具合ヨキ事柄ヲ付加シテ漸クオ茶ヲ濁シタリト云フ

要之英國新政府ト「エリオ」政府トノ間ニハ到底「マクドナルド」時代ノ如キ親善關係ハ存続シ得サルモノト認メラル云々

五三八 十二月一日 在リガ上田書記官ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

新経済政策ノ今後ノ展開ヲメリジノビエフ
派トトロツキー派トノ間ニ内訌必至ト見ラレ
ル形勢ニ付キ観測報告ノ件

ノ言行ヲ一種ノ芝居ト觀ルト同時ニ又第三「インターナショナル」限リトシテ到底自ラ新経済政策ノ範囲拡張ヲ主張スルヲ得サル羽目ニアル「ジ」ハ同シ穴ノ狐タル「ト」ヲシテ其目的ヲ達セシメンカ為メ殊更ニ同人ヲ排斥スル次第ニシテ之亦作リ芝居ニ外ナラスト觀ルモノナシトセサルモ多數一般ハ「ト」対「ジ」一派ノ必死ノ争ヒトセリ
英、仏、独、波、漢堡へ暗送セリ

五三九 十二月六日 在仏国松島代理大臣宛（電報）
ソヴィエト政府ガ仏国ニ負フ旧債務支払問題

ニ付キクラシン談話ノ件

第五五八号

（十二月七日接受）

四日着任セル「クラシン」ハ五日新聞記者ニ対シ労農ハ主義上露國旧債務ヲ承認セサルモ仏國カ「ウラングル、コルチャック」事件等ニ基ク損害ノ賠償ヲ承認スルニ於テハ妥協ノ途ヲ見出シ得ヘク仏國労農無条件承認ハ右主義ヲ是認セルモノト認ム尤モ労農ハ其ノ産業回復ヲ俟タサレハ債務支弁不可能ニシテ之力為ニハ外國ノ信用及資本ヲ必要トスト述ヘタリ

第八〇号 極秘 （十二月三日接受）

（八五四）